重文札幌農学校第2農場農機類標本台帳

一般名称: ホイールトラクタ	現地の通称: LANZ Bulldog

資料種別: ◉製品-実物 ○製品-レプリカ ○製品-模型 ○製品図面 ○写真等 ○図書掲載 ○その他

資料種類: 動力・分野	☐人力用具 ☐耕起前器具 ☐管理防除 ☐貯蔵関連 ☐畜力用具 ☐耕耘用具 ☐収穫機 ☐施設類 ☐原動機具 ☐整地用具 ☐調製機器 ☐機素 ☒トラクタ用機 ☐施肥播種 ☐加工機器 ☐その他	管理プレートNo. 牝牛舎203 台帳No.

製作者・会社: HEINLICH LANZ、 Mannheim AG. 製造市・国名 独逸

製造年_購入年,標本収集年:

使用目的・使用方法等

車輪型トラクタ

利用経過_収集記録_意義等

北大所蔵品。昭和27（1951） 年に三国商工㈱はランツ社の代理店となり、Lanzブランドの輸入販売を始めた。最初の取扱品は、普通トラクタ式のLanz-Bulldog、ツールキャリヤー式のLanz-Alldogであり、後者がポテトデガーを装備して後志地区に多数出荷した。1967年ごろLanz社がアメリカJohn Deere社に買収されて「ジョンデアランツ」型を販売する。

仕様書_解説等

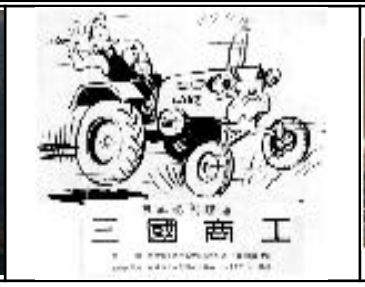
LANZ D2416：Bulldog、 24Ps、機体No. 541770

Lanz-Bulldogは、13、16、20、24、28 Ps
Lanz-Alldogは、13 Ps が市販された。

発売の初めはBulldogが焼玉機関であったが、ジーゼル化された。Alldogは、空冷単気筒、2行程のジーゼル機関で、吸排気バルブがない。

右に全体図

外観特色関連図等



資料の所在

牝牛舎

資料への特記事項

資料管理経過

作業メモ・上掲欄の超過文追記

1950-1958の普及台数は、Farmall-Cubの実績に次いで、ランツ製品のBulldogシリーズが91台、Alldogが54台を占め、Lanz製品合計145台（全導入台数の20%）で第2位となり、他社が10%内外のため、両社がトラクタ機械化の先鞭をつけたと言える。

台帳管理番号